# 総務文教常任委員会会議録

（閉会中　令和３年３月１６日）

長　与　町　議　会

# 総務文教常任委員会会議録（閉会中）

本日の会議　　令和３年３月１６日
召集場所　　長与町議会会議室

出席委員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 河野龍二 | 副委員長 | 金子　恵 |
| 委員 | 八木亮三 | 委員 | 西田　健 |
| 委員 | 浦川圭一 | 委員 | 内村博法 |
| 委員 | 安藤克彦 | 委員 | 西岡克之 |

欠席委員

なし

職務のため出席した者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 議事課長 | 青田浩二 | 参事 | 森本陽子 |

説明のため出席した者

総務部長　中嶋敏純
（地域安全課）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 課長 | 宮﨑伸之 | 課長補佐 | 畑中隆徳 |
| 係長 | 山本洋佑 | 主査 | 小川恵祐 |
| 主任 | 山下紗耶香 | | |

本日の委員会に付した案件

所管事務調査

災害用パーティションについて

ハザードマップについて

開　会　１３時２４分
閉　会　１４時１５分

**○委員長（河野龍二委員）**

午前中までの本会議、大変お疲れ様でした。定足数に達しておりますので総務文教常任委員会を開会いたします。

本日は所管事務調査、災害用パーテーションについて、ハザードマップについての件を議題といたします。調査事項についての説明を求めます。

中嶋部長。

**○総務部長（中嶋敏純君）**

皆さんこんにちは。本日は総務部所管地域安全課の所管事務調査ということでお時間をいただきました。今回は災害用パーテーション、それからハザードマップについて、詳しくは担当課長より御説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

皆様改めましてこんにちは。それでは、まずクイックパーテーションについて御説明をいたします。令和２年１２月議会におきまして補正予算を承認いただき、１月の臨時議会で議会の議決に付すべき財産の取得について議会の議決を求めたものでございます。新型コロナウイルス感染症対策としまして、避難所施設での対応に必要なクイックパーテーションとして縦２メートル１０センチ、横２メートル１０センチ、高さ１メートル４０センチ、収納寸法直径１７センチ、長さ１メートル３０センチとなっております。材質につきましてはポリエステルの防災加工品でございます。ポールにつきましてはグラスファイバーを使用しております。４００個を購入させていただいたものでございますが、巡回がしやすく換気性があることによりまして、１メートル４０センチという寸法を設定させていただいております。今後想定されます避難所運営が可能となるものと判断したものでございます。現在、収納場所としましては防災倉庫にて保管しておりますが、避難所として各学校施設での使用が考えられることから、教育委員会の協力を得ながら各施設での保管も検討しているところでございます。なお昨日、参考資料を添付させていただいておりますので御参照をいただければと思います。

続きまして、長与町洪水ハザードマップについて御説明いたします。令和２年度水防法の１５条によりまして長崎県が長与川を水位情報周知河川に指定していただいております。浸水想定区域及び想定されます水深が示されております。これに伴いまして、本町で町民の皆様に洪水や土砂災害に関する情報を提供し、災害に対する事前の備えに役立てていただくことを目的に長与町防災ハザードマップを２万部作成いたしまして、３月１７日、明日でございますが、自治会へ世帯配布を行う予定としております。本冊子につきましては、浸水想定区域や土砂災害警戒区域、避難所等を掲載するとともに様々な災害に対する知識を備えており、２２ページからなるものでございます。普段から御家族で避難場所や避難方法、避難後の集合場所、緊急連絡先等を話し合っていただく際

に活用いただければと思っております。また４月１日よりインターネット上にて公開することを予定しておりまして、印刷機能や航空写真の切り替え機能ができるようになっておりまして、洪水ハザードマップの情報を皆様に活用していただけるものと考えております。インターネット上におきましては、ハザードマップ情報のほかにも、溜池等の情報など、マップには無い情報も見ることができるようになっております。水防法の規定に基づき、２４時間当たり１，０８２ミリの雨が降ったときを想定されたものでございます。以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

**○委員長（河野龍二委員）**

それではこれから質疑を行いますが、まずはクイックパーテーションの実演を見たいと思いますので、暫時休憩いたします。

（暫時休憩）

**○委員長（河野龍二委員）**

では休憩を閉じて委員会を再開いたします。

今、実演していただいたんですけども、質疑はありませんでしょうか。

内村委員。

**○委員（内村博法委員）**

このクイックパーテーション、もちろん避難所でも使えるんですけども、今回コロナの集団接種会場がありますよね。例えば機材をそこの中に置いたり、あるいは具合が悪くなった人をその中に一時待機してもらうというようなのをちょっと思いまして、そういう方法はできないのかどうか。健康保険課ですけれども、そういう話は出てきてないんですか。

**○委員長（河野龍二委員）**

山本係長。

**○係長（山本洋祐君）**

新型コロナワクチンの対策室の方に情報提供はしておりまして、今、所管の方で会場運営を含めて検討をしているということは聞いております。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかにありませんか。

西田委員。

**○委員（西田健委員）**

参考までに教えていただきたいんですけど、カラーがブルーで、指定によっては生産可能って書いてあるんですけども、本町ではブルーだけという考えでおられるのか。それとも用途によって色を変えた方がいいのかなとも思ったんですけども、どうでしょう。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

この４００個につきましてはブルーで統一させていただいております。今、仰ったように、用途につきましてはということでございましたが、９月補正のときにも承認いただきましたように、ほかに違う用途で使えるテント型の物を購入させていただいております。そちらにつきまして、そのような用途で使わせていただければというふうに考えておりますので、今回の物についてはブルーを考えております。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかに質疑はありませんか。

安藤委員。

**○委員（安藤克彦委員）**

本日はお忙しいところありがとうございます。１点だけ、耐用年数がどのくらいのものなのか。現在の防災倉庫が、私も全部はよく把握してないんですが、物置だと熱による影響ってすごくあると思うんで。で、材質がポリエステルっていうことは劣化が起こりますよね。ちょっと特殊なものなのかもしれないんですけども、大体耐用年数は未使用の状態でどのぐらいまでもつものなのか、そういった情報があれば教えてください。

**○委員長（河野龍二委員）**

山本係長。

**○係長（山本洋祐君）**

耐用年数は１０年というふうに聞いております。防災倉庫の方に収納をさせていただいているんですけども、防災倉庫が、湿気等が入らない仕様の防災倉庫になっておりまして、熱にも強いというふうに聞いております。収納方法なんですけど、このテントの収納の上に段ボールを、写真の様に収納をしておりますので、一定対応については大丈夫なものというふうに考えております。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかにありませんか。

八木委員。

**○委員（八木亮三委員）**

これまでの質疑と重複したところがあったら申し訳ないんですが、まず、これ１台で４名用ということでしたけれども、先日の東北地震の際に避難所でこれとかなり似たようなものを設置している所をニュースで見たんですけれども、結構間隔を空けて設置していたんですよね。そうするとこれの用途というか、使い方としては結構間隔を空けて置くのかなと思ったんですよね。何が聞きたいかって言うと、例えば、今まで長与町武道館で避難していた方々を収容できる人数が、逆にこれを使うことによって、ちょっと少なくなるのかなと思ったんですが、その辺の運用方法の想定とかあれば伺いたいです。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

御指摘のとおり、今回このパーテーションを使った形でそれぞれの施設におきまして、可能台数に制限をかけております。本来であれば平米数で収容人員を決めているところですけども、コロナウイルス対策におきましては、このパーテーションを置いた形で１区画３メートル掛ける３メートル、それだけ間隔を空けることを想定して台数を設定しております。今回４００個のパーテーションをお願いしたところでございますが、これにつきましては１２か所の避難施設につきまして既にマニュアル的に想定をした図面を引いております。それによって対応をしていきたいというふうに考えております。当然でございますが１区画４名を想定した家族の避難スペースということでクイックパーテーションを設定しております。本来であればコロナウイルス対策でございますので、通常の倍の平米数をということで国辺りからも通知が来ておりますけども、それぞれの避難所におきましてクイックパーテーションで世帯別に区切る形では問題ないということで設定をさせていただいているところがございますので、今おっしゃったとおり収容人数につきましては、今、想定している地域防災計画よりは少なくなってこようかと思っています。これについても今後改定をする必要があるかというふうに思っております。

**○委員長（河野龍二委員）**

八木委員。

**○委員（八木亮三委員）**

元々コロナの以前から避難所のプライバシー確保っていうのは言われていたので、そういう用途にもなるのかなと思うんですが、例えば、今後コロナウイルス対策って言うのが、極端に言うとコロナが収束して不要になっても、基本的には避難所ではこれを建てる前提なんでしょうか。その辺もお願いします。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

基本的に通常の災害における避難所開設となりますと、これは段階別がございますが、自主的避難所の開設におきましてはスペースを確保するっていう形で皆様にお使いいただくことになるんですが、先程もちょっと触れたんですけども、このクイックパーテーション以外に令和２年度の補正予算におきましていろいろな形の屋根付きのクイックパーテーション、テント型の物も購入させていただきました。これにつきましては今までの災害時の最大人数、通常の自主的避難所の開設に対応できる個数を用意させていただいています。それにつきましては先程のパーテーションと違いまして、一人でもテント型でございますので、たやすく設置ができるものを用意しております。用途がありますけども、やはりプライバシーの確保が必要でございますので、授乳施設であったり、子どものおむつを替える施設であったりが必要になってくるということから、今後はこのパーテーションを有効に利用していきたいと考えております。

**○委員長（河野龍二委員）**

八木委員。

**○委員（八木亮三委員）**

確認なんですが、基本的には避難所開設の際は、こういうパーテーションを使うという前提なんでしょうか。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

現状におきましては使う予定でございます。

**○委員長（河野龍二委員）**

金子委員。

**○委員（金子恵委員）**

当然のことを聞いてしまうのかもしれないんですが、設置して今度収納というときに、一旦消毒をやっぱりしないといけないというところで、となるとまた職員の手がそこである程度掛かるのかなと思うんですが、そちらの方の想定というか、大変だろうなと思うんですが、そういうところも職員の中のマニュアルには入っているんですか。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

購入時にこのポリエステルの生地につきましても、消毒液を使った消毒が可能なものという形で対応をさせていただいておりますので、そちらについてはそういう対応になってまいります。当然職員の増員等も含めた時間につきましては、それだけ負担が掛かってくるのはもう承知でございますけども、やはり避難所の運営ということを考えますと、これはもう当然やるべきことかと思っております。

**○委員長（河野龍二委員）**

それではハザードマップについても質疑を受け付けたいと思います。

質疑はありませんか。

浦川委員。

**○委員（浦川圭一委員）**

洪水浸水想定というのが初めて示されたと思うんですが、私ちょっと見てびっくりしているんですが、これは２４時間の雨量を想定したときに、これだけ洪水を起こして影響を受けるんだということですよね。私の考えでは低い所から溢れていって、そこが飽和状態になったらだんだん上流の方に来るのかなというふうな認識でおったもんですから。まず役場と一番下流の方の、どこが分かりやすいですかね、どこでもいいんですけど、北小とかって高低差はどのくらいあるか、分からないですかね。役場がぎりぎり浸かった頃に、そこら辺はどれぐらい浸かっているのかをちょっと知りたかったもんですから。この地図で見ると浜田出張所とかありますよね、恐らくこっち側に私はもうどん

どん行くんじゃないかなと思うんですよ。もしこの洪水がずっと下流から上がってきたときには時津の方に。だから、この役場周辺はまず浸からんだろうという想定をしていたんですよね。同じように浸かるんだというのが今回示されておりますので、これは間違いないですよね。

**○委員長（河野龍二委員）**

山本係長。

**○係長（山本洋祐君）**

こちらが課長の説明のとおり千年に一度の大雨、１，０８２ミリという想定で作成しております。こちらが国土交通省のガイドラインで千年に一度という設定で作りなさいということで作っております。先の長崎大水害のときが１日で５２７ミリでしたので、倍ぐらいの雨が降ったときに、このように浸水するよという想定になっております。役場庁舎も御指摘のように浸水をするという想定なんですけども、長与町の業務継続計画ＢＣＰの中では、こちらの本庁舎が被災した場合、浸水した場合は、水道局の２階、３階のスペースで執務をするという想定にしておりますので、そういった面で御理解いただきたいと思います。

**○委員長（河野龍二委員）**

浦川委員。

**○委員（浦川圭一委員）**

今後の運用ですけど、これに基づいて例えば避難を促したりとかされるんですか、千年に一回かもしれませんけどもそういうことになるんですか。これを公表するということはそういうことなんですか。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

基本的には先程も言いましたように千年に一度という水害を想定しておりまして、通常の災害を想定した場合にはなかなか住民の方に理解が難しいものと思って、あくまで参考的な資料ということで、自分達が住んでいる所が大雨によって浸水する可能性があるってことを普段から認識していただいて、逃げる体制づくり、そういうものに生かしていただきたいと。また、浸水想定がされてない地域を通って逃げられるような対策がとれるということで、一番安全な所を通って逃げていただきたい。安全な所に避難していただきたいというための資料として今後は周知をさせていただきたいというふうに思っております。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかに質疑はありませんか。

金子委員。

**○委員（金子恵委員）**

今年は東北の震災から１０年ということで、テレビでもいろんな自治体での、この防災マップに関する住民とのディスカッションの場とか、そういうのが放送されていたんですが、陸前高田市の庁舎は、実際、幾ら防波堤を造っても１メートルの浸水が想定されると。住民の声は「たかが１メートルでも想定される所に防災の拠点っていうのを置いて良いのか」というところでのかなり激しいディスカッションがなされていたんですが、千年に一度とか、国の方が想定をされているので、それはもう何とも言えないんですが、今もう尋常なとか、想定外のとかいうのがもうなかなか通用しない状況になっているし、これからも地球温暖化が進む中でいろんな想定を、本当にもうあり得ないような想定も考えておかないといけないというところで、この浸水地域を見るとこの中にかなりの避難所が含まれているというところで、千年に一度だから参考程度にということではなくて、町の防災マップとして一旦皆さんにお見せするということになった場合、もう参考程度にはやっぱりおかしいと思うんですよね。ですからここの中にこういう避難所はあるけれども第２の避難所、第３の避難所っていうのを確保しておくことっていうことと、ここが浸水するのに水道局での２階、３階でその業務を行うと言ってもあまり何メートルも変わらないので、それこそもう別の高台の施設っていうのも第３の想定として考えておくべきだというふうに私もう以前から思っているんですが、そこに対する考え方、今回のこの防災マップはこれが最後じゃなくて、いろんな更新をされて新しいものが出てくると思うので、それまでの検討事項かと思うんですけど考えをお聞かせいただければ。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

「参考資料に」という言葉を使わせていただいたのは、町民の皆様から見た場合にやはり自分の地域を自分達が一番良く知っているわけでございます。その中で、こういう形で示されている危険地域を把握していただくための参考ということでございますので、御理解をいただきたいと思っています。当然、町としましては今おっしゃったとおり、幾らこちらが「千年に一度」、「７．２３の倍以上の雨が降った場合を想定しても大丈夫ですよ」ということを言いたい部分はあるんですけども、そういうことは現代の災害を考えますと、やはりいつどこで起きてもおかしくないということで、当然、町としましてもこの洪水ハザードマップを今回作らせていただいたことによって、またさらなる対策に向けての新たな基本となるものと考えております。今回作らせていただきましたものにつきましては、やはり町民の皆様にいろいろな形の災害が起きたときに対応できるようなマップ、もしくは冊子として提供できるものが今回予算の方も認めていただきましてできたものですから、そういう形で、町民の目線に立ったところでの災害に対するマップとして使っていただきたい、また使っていこうという形でございます。当然町としましては立場が違いますので、考えていく必要はあると思っております。

**○委員長（河野龍二委員）**

金子委員。

**○委員（金子恵委員）**

今回のこの防災マップというのは、ある程度住民の方の声も聞いての作成だと理解はしているんですけれども、次回このような機会があったら、今、課長がおっしゃったように地域でしか分からない、この間の内水氾濫だとか、そういうものもやっぱり入れ込んでおく。町内での引っ越しとか何とか異動もあるかもしれないので、新たに来た土地のことっていうのは、今日来て明日分かるかというのはそうでもないし、かといって防災マップも見ないでしょうけれども、そういうところを、全体的なことを網羅したある程度の総合マップというのを念頭に、やっぱり住民の声を聞きながらまた次回は仕上げていただければなと思うんです。これは要望になってしまうので、お答えは結構です。

**○委員長（河野龍二委員）**

内村委員。

**○委員（内村博法委員）**

長与駅前に長崎県が設置している水位観測所、長与町にはもう１か所あるというふうに聞いているんですけれども、それぞれの危険水位。例えば長与駅前の所は２．２メートル、もう１か所は違うのかどうか、危険水位がですね。それと観測所のデータは県の方に行くと思うんですけれども、長与町にも直接ダイレクトに来る仕組みになっているんですか、その水位が。それともう１つ、あそこの観測所で水位がオーバーしたら何か音声とか、それから何か色が変わってくるんですか。そこの辺りの仕組みがよく分からないもんですから、そこを教えていただきたいと思います。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

河川のことになりますけども、私達がこちらの方で把握してる分につきましては、川の水位、先程言いましたけども長与川については２点観測地があります。それについては当然ですけども、氾濫水位につきましては差がございます。それはもう形状の問題等もあります。あと表現も氾濫水位という言葉も使わせていただきましたけども、駅前とその長与川のもう１点につきましては表示方法も若干違うございまして、一概に比較できるような表示にはなっておりません。ダイレクトにその数値がこちらの方に、ということでございましたけど、これは長崎県のシステムの中の河川情報でございまして、直接というか我々のシステムの中で、通常業務の中で使わせていただいているシステムで確認がとれるようにはなっております。あと水位がオーバーした場合、当然でございますけども、今、現在ある観測地点におきましてはサイレンが鳴ったりとか、もしくは表示ができるようなものにはなっておりますが、直接それが県の方が操作しておりますので、こちらの方では分からない状況でございます。

**○委員長（河野龍二委員）**

八木委員。

**○委員（八木亮三委員）**

今あった質疑と繰り返しになったら申し訳ないんですが、もう少し現実味のあるというか、千年に一度の雨というのは先程おっしゃったとおり参考にはなると思うんですけど、やっぱり千年に一回しか起きないということで、例えば大水害のときは２４時間で５２７ミリとしたら、例えば２４時間で２００ミリだとここまで浸水する。４００ミリだとここまでとか、そういう実際にあり得るぐらいの雨のときに「うちは大丈夫かな」とか、そういうのを見るようなマップというのは無いんでしょうか。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

千年に一度という言葉は使わせていただいておりますが、想定が１，０８２ミリということで、１，０８２ミリに達した場合に長与川が氾濫するという想定でございます。よって、長崎大水害のときの２倍という形を先程答弁させていただきましたけども、それに耐えうるだけの長与川の形状だという形で御理解いただければと思います。

**○委員長（河野龍二委員）**

八木委員。

**○委員（八木亮三委員）**

すいません、勘違いしていました。ということは、このぐらいの雨が降らないと長与川から氾濫しないと考えていいということでしょうか。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

現在そういうふうにお伺いをしております。

**○委員長（河野龍二委員）**

八木委員。

**○委員（八木亮三委員）**

今、４月からホームページ、ネットでも見られるということでしたので、そちらで見ればいいんですが、いただいた資料で下の方に３と書いてあるハザードマップ索引図は町内を５分割してありますけど、これはホームページとかで見るとそれぞれを拡大した図が見られるんでしょうか。

**○委員長（河野龍二委員）**

山本係長。

**○係長（山本洋祐君）**

４月１日から運用予定のウェブ版につきましては、例えば自分の地域を拡大できたり、

自分の今居る所を拡大してピックアップして印刷できたりという機能もついております。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかに質疑はありませんか。

私も質疑をしたいので、委員長を交代します。

**○委員（金子恵委員）**

質疑はありませんか。

河野委員。

**○委員長（河野龍二委員）**

先程、金子委員が言われた質問と重なると言いますか、１，０８２ミリの雨が降ると河川が氾濫して浸水しますという形で、役場が水道局で業務をしますという話なんですけど、見てのとおり消防団の格納庫が３つ浸水水域にかかるわけですよね。恐らくいろんなこういう事態になると消防団は出動していただいて、いろんな救済、救援活動をされると思うんですけども、こういう形で浸水するとその機能が果たせないんじゃないかなというふうに思うんですけど。そういう意味では先程から言うように、相当数の雨が降らないとこうならないという想定なんですが、やはり一定こういうのを避けて消防分団の格納庫っていうのは必要かなというふうに思うんですけども、その辺はまだ全然考えにありませんか、お伺いしたいと思います。

**○委員（金子恵委員）**

山本係長。

**○係長（山本洋祐君）**

委員御指摘の御心配はありがたい御意見です。実は当初予算の方で令和３年度計上させていただいたんですけども救命艇を３台御承認いただきました。消防団ということで地域防災の要ですので早めに動いていただいて、万が一の際は、そういうものも活用しながら生命と財産を守っていただくようにお願いしていきたいと思います。

**○委員（金子恵委員）**

河野委員。

**○委員長（河野龍二委員）**

浸水した場合そのボートを活用してという形なんですけど、そもそも浸水してくると消防団員の方がここに行くのが困難になるんじゃないかなって気がしてならないんですよね。だから浸水地域を避けて、その重要な拠点というのは移す方向に検討された方がいいのかなと。何度も言うようですけど、相当数の雨じゃないとこういうふうにならないというふうな大前提があるのかもしれませんけども、こういう数値が出てるなら一定こういう所を避けた方がいいんじゃないかなって。かなり消防団格納庫も改築したり増設したりして綺麗になってるんで、今さらなかなか難しいところもあると思うんですけども、将来的にはちょっとそういうところも考えた方が良いんじゃないかなというふうに思うんですけど、今のところないんですか。

**○委員（金子恵委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

おっしゃるとおりでございまして、格納庫の今後の振興計画上の計画というのがございます。それに向けては今現在の建屋の位置、新たな場所がないかっていう検討は当然させていただいております。しかしながら、町有地を含めまして現在町が持っております公共施設につきましては、なかなか現状としては難しいものがあると考えています。これはもう避難所に関しましてもそうでございます。全国的に国の方がどんどんどんどんこういう対策をとっていただいて指定をしていただいた結果、こういう形で進んでおりますけども、やはり避難所等を含めた公共施設等はなかなか所有物がないことから難しいということになります。消防団につきましては、確かに１，０８２ミリ、長与川が氾濫した場合こういう形になりますということで、当然その前に雨が降り出した場合に、警報等の発令が出た場合に消防団はもう出動をさせていただく体制をとることができますので、その前段階で、そういう判断の前にどう対応していくかということがまず第一と考えますので、こういうマップができましたということで消防団にも示すようにもしておりますので、この段階に入る前にどう対策をとっていくかということが今後のまずやっていくべきことと思っておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

**○委員（金子恵委員）**

委員長を交代します。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかに質疑はありませんか。

浦川委員。

**○委員（浦川圭一委員）**

私、最初申し上げたんですが、溢れるはずはないんじゃないかと思っていたんですが、今の話を聞いてなおさら、千年確率で可能性はあるって、長崎大水害の倍降ってようやく溢れるか溢れんかぐらいの話なんでしょう。もうちょっと安全ですよというアナウンスはできないんですか、逆に。あのね、いたずらにこういう図面だけ回ってしまえば、特に今、川と変わらんぐらいの平地に住んでいる人なんか「ああこんだけ溢れるんだ」とまず頭に入りますよね、何か雨のときに逆に混乱を招くんじゃないかなって思って。私はもう「安全ですよ」と逆に言った方がいいんじゃないかなと思って。河川の例えば設計なんかは中嶋部長が一番詳しいと思いますけど、恐らく千年確率とかじゃないですよね断面の計算なんか。もっと少ない確率で河川なんかを造るわけですから、千年確率でぎりぎり溢れるなら完全に大丈夫じゃないかという話ですよ、私の感覚からいけば。だから、配らんばいかんわけですか。溢れたらこんだけというような趣旨なんでしょうけど、そこまでもらった側が理解をしてくだされば いいんでしょうけど、いたずらに危険を、危ないですよというようなことをあおっているような感じがするんです。どうで

すか、部長はいかがですか。

**○委員長（河野龍二委員）**

中嶋部長。

**○総務部長（中嶋敏純君）**

今おっしゃいますように、多分長与川は１００年確率とか、２００年確率とか、そんな確率で計算をされているはずだと思います。そういうことで今、委員御指摘のように、うちの部内、課内でも７．２３の倍の雨量が降るっていうことは相当な雨量ですので、多分大丈夫だろうという話はしてきたところです。しかし、最近、東日本大震災等々もございました「想定外」という言葉が出ます。そういうこともございまして、国の方で水防法の１５条の３で設定をされているようでございます。このハザードマップにはやっぱり目的と言いますか、ここにも書いてございますけど、町民の皆様に洪水や土砂災害に関する情報を提供して、災害に対する事前の備えというのに役立てていただくというようなことも目的としてあるようでございますので、決してこれが恐怖感を与えるとか、もう直ちに越水してとか、そういうことは考えられませんけれども、長与川だけを、今このハザードマップということで目が当たっているみたいですけれども、先程出ていました内水氾濫と言いますか、長与川に合流する支川というちっちゃい川もございます。そこら辺りが今度は雨によって氾濫したりとか、それから場所によっては斉藤辺りでも田んぼがございます。そこにまた湛水機能というのがございます。周りが宅地だと洪水が到達する時間も早いですし、農地ですと河川に到達する雨水の量も時間も遅くなりますから、場所、場所で違ってくると思いますので、そういうところもいろいろ、この際その地域、地域で、そういう防災の考え方というか、備えを、意識を高めていただくというようなことでお願いしたいと思っております。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかにありませんか。よろしいですか。

西田委員。

**○委員（西田健委員）**

避難所一覧がこの索引図の中にあるんですけど、１と３、堂崎の方と本川内駅の方と、この辺、何か見た感じでは少ないなと思ったんですけども。今までにいろいろあったときに、避難をされる方というのはもう町としては把握されているかと思うんですけども、ちょっと私が思ったのは潮井崎公園以降の所と本川内駅の上の方の山とか、あの辺の方達は避難って、どこにされるのか。要は少ないなというのが感じた印象なんですけども。

**○委員長（河野龍二委員）**

宮﨑課長。

**○地域安全課長（宮﨑伸之君）**

今議会にも御質問いただいたことでいろいろ御回答させていただいたんですけども、本川内地区、岡地区については、やはり公共施設におきます避難所としましては少ない

ような感じがする部分はあるんですけども、人口で考えますと、それが耐え得るだけの避難所の収容人員ということで、高田地区、嬉里地区の避難所の数、人口と比べますとそれについては避難ができる体制ということは数値的には私達も申せるんですけども、避難所の施設につきましては、概ね歩いて２キロぐらいの所には避難所があった方が望ましいという形になっておりますが、その範囲でいきますと若干岡地区なんかは距離がございますけども、公共施設等を避難所として指定することになっている部分もございまして、その部分がなかなか今現在のところは難しい状況ではございますが、収容人数としましては、そういう形で確保させていただいておりますので、対応できる体制で皆様に前もっての周知を徹底していく必要があるんだろうというふうには思っております。また災害の種類によって避難所の指定が変わってまいりますので、それによって現在の数についても検討することになっておりますので、よろしく御理解をお願いいたします。

**○委員長（河野龍二委員）**

西田委員。

**○委員（西田健委員）**

おっしゃることはよく分かりますけども、ただ、やはり中央地区に避難所が多くなるのは仕方ないんですけども、人口割でいけばですね。ただ、やっぱり危ないのは岡地区の先の方とか、本川内の山あいの所とか、そこら辺もちょっと頭に入れとって、すぐにはあれなんで避難所ができるような、人口割りじゃなくて危ない所に何か一つそういう避難所が要るんじゃないかと思いますんでよろしくお願いします。いいです回答は。

**○委員長（河野龍二委員）**

ほかに質疑はありませんか。担当課はこのあと会議もありそうなんで、質疑がなければ質疑を終了したいと思いますけど、よろしいでしょうか。では質疑なしと認めます。

昨日、本日と急な対応に中嶋部長はじめ職員の皆さんには大変御協力いただきまして、ありがとうございました。委員の皆さんは今回行った所管事務調査を政策提言や一般質問の参考になればというふうに思います。

以上で所管事務調査を終了いたします。お疲れさまでした。

（閉会　１４時１５分）